

2020 年度 浦佐地域づくり協議会の主な実施事業について（現況報告）

2021.03.15

はじめに

浦佐地域のコミュニティ活性化事業は、浦佐地区センターに「浦佐地域づくり協議会」を設け、「雪国おくにじまん会館」の管理のほか、様々な事業を行っています。

地区センターとしての主な役割は、①施設全体の日常的な維持管理 ②協議会事務及びイベントなどの自主事業の実施 ③各行政区・市との連携 ④市報等行政区あて文書の配送 ⑤協議会が認める公共的団体等の支援と事務局事務 などがあります。また、独自のプロジェクト事業の企画と実施、地域の活性化に有効と思われる事業などとの連携を進めています。



（浦佐地域づくり協議会は、市民・行政区と行政の中間組織として 2008 年 4 月南魚沼市主導で設立された）

浦佐地区の概要

浦佐地区は 15 行政区で人口約 4,500 人、世帯数 1,800 となっている。（2021.3 現在）地区の中央を魚野川と JR、国道 17 号が南北に通り、地域のランドマークとなる新幹線駅、魚沼基幹病院、八色の森公園、国際情報高校などがあって、旧大和町 4 地区の中心地域となっていました。地区の基幹産業は農業となっていて良質なコシヒカリ、八色スイカ、きのご等が生産されています。地区全体では人口・世帯数共に微増或いは維持傾向にあるが、少子・高齢化と中心地への人口集中が進む傾向にあって、バランスの取れた発展など今後の課題になると思われます。

1 活動拠点事業（市からの委託事業で予算規模 2,270 千円） 別紙資料 1

浦佐地域づくり協議会の事務局は、雪国おくにじまん会館の 2 階にあって地域の活動拠点となっています。事務長ほか 2 名、計 3 名の事務員が常駐（月～金曜日 8:30～17:00）しています。また「浦佐公民館」の事務室として、不定期ですが館長が同室で事務を行っています。

- ・「雪国おくにじまん会館」（浦佐地区センター）の運営と管理を行っています。
- ・毎月 2 回、南魚沼市から発行される市報・お知らせ文書等、各行政区へ配送します。（原則毎月 1・15 日ですが、土・日曜など休日の場合には前日配送となります。年間 24 回以上）
- ・浦佐地区センターの開館時間は、年末年始及び、祝祭日を除く月曜から金曜日の 9 時から 17 時までとなっています。（会館の利用は予約により、9:00～22:00 まで休日も含め利用可能）
- ・地域での困り事や地域の課題・問題、コミュニティ活動に関する相談事について窓口を開いています。また地域課題等について、県市への窓口として“要望書”のとりまとめも行います。
- ・カラーコピー機の利用、芝刈機、小型除雪機、テント、折り畳み椅子・テーブル、PA 機器等の備品類の貸出も可能です。

（繰越金、雑収入等含む収入済額 2,430 千円）

2 地域活性化支援事業（市から受ける交付金事業で予算規模 3,520 千円） 別紙資料 2

地域活性化支援事業は市から交付金を受け、コミュニティの醸成また地域の活性化に向けた活動を行なう事業で、「提案事業」と「基礎事業」からなっています。事業費は南魚沼市から同名の交付金で賄われていますが、提案事業では独自の収入源を求めるなかで開催するイベントもあります。また前記交付金のほか、新潟県と南魚沼市から別枠で「地域との絆支援事業(交付金事業)」などの事業支援を受けています。



(繰越金、負担金収入等も含む収入済額 4,210 千円)

○ 提案事業（事業費予算額 2,510 千円） 別紙資料 3

提案事業の目的は、地域で行われている伝統行事や活性化イベントの支援のほか、地域全体を巻き込むような活性化イベントの開催などを通してコミュニティを醸成しようとすることです。

各種共催事業や浦佐公民館・各種団体・環境活動への事業費補助、フットパスなど小規模な観光交流を進めてきました。しかしながら、年度当初から“新型コロナウイルス感染症”の拡大に伴って多くのイベント事業などが中止されることとなって本来目的である地域の活性など十分な活動が出来なかった一年でもありました。



皆で汗を流した駐車場・広場整備

そうした中であつてもただ中止することなく、“新しい生活様式”に対応する地域イベントの模索と実施、フットパス事業の準備と昨秋の「旧三国街道コース」のオープンなど将来につながる事業の展開もすることが出来ました。また「JA 浦佐支店跡地」の活用についても、すぐにイベント事業などに結び付きませんが“地域の将来に向けた重要な取り組み”であり一定程度の方向性を示すことが出来ました。

南魚沼市からの委託事業で体験住宅施設(浦佐びしゃもん亭)の運営は 2 年間程度でした。当初思い描いた以上の成果を残すことなく終息をすることとなりましたが、「小さな観光」を目指すうえで大きな知見などを得ることが出来ました。(事業会計)

○ 基礎事業（事業費予算額 1,700 千円） 別紙資料 4

基礎事業の目的は“地域で実施が可能な小さな公共事業”をすることで、地域の安全・安心に寄与することです。主に道路などの維持補修・改善などを目的としていて、市道また準じる道路などで付帯施設などを中心に改善・補修工事などを行う事業です。

基礎事業は、地域で管理する道路水路の外、水路や市道などの簡便な補修工事など、地域の視点・目線から実施できる事業で、ここ数年、街路灯・防犯灯などの LED 化を計画的に進めるほか、道路施設などの小さな改修工事や災害対応など、市役所と連携するなかで進めています。

地域の公共事業やまちづくりを考えるうえで、「都市計画」はハード整備の骨格であり非常に重要なまちづくり要素であり骨格をなすものです。新潟県と南魚沼市による数年来の見直し事業が進んでいるところですが、地域で十年来積み上げた思いが十分伝わるような働きかけと協議を続けてきました。



また、「浦佐の川まち計画」についても国交省はじめ行政機関への要望や打ち合わせなど地域の課題解決に向けた取り組みを進めました。

3 各種プロジェクト事業（概要紹介）

別紙資料 5

○ びしゃもん通り賑わい事業

空洞化しつつある浦佐西山地域の活性化を目的に、商工会、料飲店組合の皆さんを中心に地域の連続した新しいお祭りとして創設し、ローコストで省力化に工夫を凝らす中で“お祭りの日常化”を目指してきたところです。準備や当日の運営など全員で汗を流し、スタッフも含め全員で祭りを楽しむ“密なスタイル”を目指しやってきたところですが、コロナウイルスによる感染症対策からお祭りの中止・規模縮小などの対応に迫られた一年でした。

「小さな祭り」は当初、5から10月まで4回開催（基本第4日曜日）を計画し、浦佐「毘沙門通り」で賑わい事業として開催する計画でしたが、規模を縮小する中で4回の“縁日開催”としました。

お祭りは“三密を避ける”ことで開催し、新しいお祭り形式を模索しながらの開催でもありました。計画の最後にはようやく“フルスペックの「小さな祭り」”を開催することが出来ました。



7月26日	小さな縁日	びしゃもん市	軽トラ市	300人
8月9日	小さな縁日	直前の中止(8/6 地域医療関係者の感染発表 8/7 中止決定)		
9月13日	小さな縁日	びしゃもん市	軽トラ市	120人
9月27日	小さな縁日	びしゃもん市	軽トラ市	180人
10月25日	小さな祭り	びしゃもん市	ストリート芸能 軽トラ市	520人
翌3月6日	小さな縁日	料飲店模擬店	移動販売車	10時 ~ 20時 1,000人



10月にはようやくフル規格の「小さな祭り」を開催！



4回の開催では1,120人(前年比62.5%)の人出となりましたが、3月の裸押し合い大祭への縁日出店が急遽決まり浦佐料飲店組合からの協力を得ながら“地域交流の場として出店”することが出来ました。今回の大祭では唯一の模擬店であり、コロナ禍での中でしたが「感染症対策」を行いながら開催することが出来ました。

こうした取り組みは“今取り組める最善な方策”として努力と地域協力の結果であり、今回の取り組みが次年度へ繋がる足掛かりとなったと考えています。協議会ではいくつかのプロジェクト事業を進めている中で“新しい生活様式”に合った取り組みのヒントを得たと思っています。

(事業費支出 147 千円規模)

○ 夕涼み 生ビール&鮎まつり

7月26日(日) 第11回 生ビール&鮎まつり！



今年度 11 回目の開催となるはずであった『夕涼み 生ビール&鮎まつり』は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止をせざるを得ない状況にあったことから、早い段階での決定をさせて頂きました。10 年間にわたり育てた “浦佐の夏の風物詩” としての地域の一大イベントに定着したなかでは非常に残念な中止決定でした。

90 名以上のスタッフとの一体感の醸成や、良質な生ビールと、じっくりと良質な炭火で焼かれた美味しい焼き鮎の美味しさ、また地元芸達者の皆さんとプロ歌手によるステージとの融合・交流は地域コミュニティの醸成に大きな効果を残していました。こうしたことから次年度以降も新たな開催方法を考えながら残すべきイベントと考えます。

今回、「生ビ&鮎まつり」の開催予定日には、次年度へ繋がる代替イベントとして【小さな縁日】を開催することで見てきた何かがあったのではないのでしょうか。

(事業費 78 千円)

地域情報は協議会のHPからも見る(後日掲載予定)ことができます

浦佐地域づくり協議会 ホームページ <http://urakyou14.com>

浦佐地域づくり協議会ブログ(地域と協議会周辺の話発信) <https://yucreate.exblog.jp/>

○ 八色の森健康ウォーキング(協働事業)

旧大和町時代に整備が始まった“レク都市公園”は魚沼地域では初めての都市型公園として建設されることになって、H10年に一部がオープンしH19年8月には全面供用が開始されました。「八色の森健康ウォーキング」は、地域と一体になった都市型公園の利用と、より幅広い“公園ライフ”の活用を目指した健康イベントとして定着し、地域の公園としての認知度も高まってきました。また、ウォーキングイベントは数少ない行政組織を横断的にまとめた地域との“協働事業”でもあって、公園と周辺地域の環境整備に大いに役立ってきたと思います。

県・市と地域はそうした状況の中で、協働事業としての「ウォーキングロード協議会」を立ち上げ、更に直営のイベントの実行組織としての「八色の森健康ウォーキング実行委員会」も組織しました。

協働で行うイベントで、奥只見レクリエーション都市公園「八色の森公園」を発着とし、水無川・魚野川などの舗装された堤防道路を主体とするコースで、景観を楽しみながら歩いてきました。里山や水辺の景観などを楽しみ、参加者との語らいも楽しみの一つ、地域を知ることや、健康をテーマにしたウォーキングイベントとなっています。



八色の森公園発着の健康ウォーキング
協働事業として開催されました



毎年「秋分の日」に開催されてきた健康ウォーキングは、募集期間も長く例年参集範囲も広く多くの参加者があったことから、残念ながら当年度の開催を中止とさせて頂きました。

○ 浦佐地域合同「賽の神祭り」

以前は浦佐中学校として利用されその後工場用地として利用、現在は“工場跡地”となっている土地について、地域で活用することで将来的な土地の有効利用の意味も含め始められた「地域合同の賽の神祭り」で、同時に“跡地利用促進協議会”が立ち上がりました。今年度も地域イベント等の駐車場とし利用とシーズンを通して草刈作業など整備を積極的に行うなかで、地域の伝統行事である「賽の神祭り」の開催につなげてきました。



金曜日の会場踏み固めでは・・・
道離しそうなフカフカ雪でした



例年になく大雪の中、12回目の賽の神祭りでした



1月11日（成人の日）浦佐駅西側、旧浦佐中学校跡地の広場をお借りし、今年12回目となる地域合同「賽の神祭り」を実施しました。昨年とは打って変わり大変な大雪となりましたが、事前の会場づくりと参道の踏み固めなど行いました。当日の直前にも大量の降雪があって、会場づくりなど時間を要しましたが立派な“賽の神”も出来上がり一年の無病息災や家内安全を祈ることが出来ました。

コロナ等の影響もあり、会場への参加者も例年の半分以下となりましたが無事に開催できたことは良かったと思います。なお今年の開催ではコロナ感染症を防止することから、温かな甘酒やトン汁でのおもてなし・振舞いなどは控えることと致しました。

今回の大雪では初めて事前の路踏みと会場となる広場の踏み固め作業を行いました。日常生活ではほとんど使わなくなった「かんじき」を着けて大量の積雪に立ち向かいましたが・・・、かんじきを着けても足は深く潜り込み大変な作業となりました。困みに当日の積雪深はこの時期としては過去に例が無いほどの250センチ（大和庁舎の観測値）でした。

人出 100 人 （事業費 94 千円）

○ 「フットパスコースの整備」の取り組み

フットパス事業は、人口減少が続く地域の経済的活性化も視野に入れた総合事業として2016年度から南魚沼市の支援（パイロット事業）を受けるなか勉強会、講演会の開催から本格的に始まりました。

南魚沼市からの交付金を受け、また新潟県南魚沼地域振興局サポートチームからの支援も受けるなか、コロナ禍ではありましたがSNSを活用した動画配信など行うことが出来ました。

「人口減少対策」と、「小さな観光」による地域活性



フットパスの休憩ステージにて

化の取り組みとして、フットパスコースの開設が遅れましたが 20 年秋には「旧三国街道コース」をオープンさせることが出来ました。開設に伴い、コースマップの販売、案内標柱の設置、コースの整備と休憩ステージなどの設置を行うことが出来ました。またコースのオープンイベントとして数回のツアーを開催し“観光事業としてのフットパス”も小規模ながらスタート、今後もコース整備をはじめ、地元支援組織の結成、地域・学校での活用、観光客の誘致などに力を入れたいと考えています。



引き続き「日本フットパス協会」との交流を継続し、協会加入、イベント参加など積極的なつながりからも誘客を図りたいと考えています。

フットパス事業における主な実施事業として

- ・ コースマップの製作(1,000 部)、広告スポンサーの協力(12 社)
- ・ 標柱の整備・設置、案内看板等の設置(全 22 箇所)
- ・ 休憩ステージの製作と設置(岩山と境川の段丘上に 2 箇所設置、更に一ヶ所地権者の協力から造成中)
- ・ コース整備(通年の草刈り作業、休憩ステージ周辺の除伐・草刈り整備)
- ・ CM 動画の撮影と動画配信の協力(県サポートチームによる、全 13 名)
- ・ コースのオープン(10 月 18 日)に伴い数回のツアー実施(全 7 回 74 名)

(交付金関係事業費予算 3,500 千円)

(詳細は【浦佐のフットパス】ホームページ・ブログ参照)

○ 「浦佐の T シャツ」 作りと販売事業

“浦佐のアピール” と地域の活性化、などの創出を目的に、「生ビール&鮎まつり」でデザインされたスタッフ T シャツをベースに一般販売用に製作をしました。製作数は 200 着(M・L サイズ)で販売単価は 1,700 円/着、地区内数店舗にて販売中です。(2019 年度から販売 残枚数 100 着)

今年度は特にイベント会場等で一般販売を予定していたところですが、多くのイベントが中止になったことから販売数が伸びませんでした。



○ その他支援事業の取り組み

毎年実施される地域の活性化イベント事業にも協議会は積極的に参加しています。

- ・ 第 11 回南魚沼グルメマラソン 6 月 14 日(日)
残念ながら中止されました



・第 34 回耐久山岳マラソン・

健康歩こう大会 9 月 6 日（日）
コロナ対応が難しいことから中止となりました

・南魚沼グルメライド(10/4 開催)、では立哨員スタッフ
の協力として参加をしてきましたが、今年度の開催は
中止となりました。



4 多面的機能支払交付金事業

平成 26 年度から始まった「多面的機能支払事業」はそれまでの“減反政策”に代わる新たな国(農水省)による交付金事業として、「農振地域」と周辺を含む様々な農業環境の維持と整備を目的として創設されたものです。事業を推進するための組織は南魚沼市内 12 地区に設置する予定でしたが、浦佐地域には対応を受け入れる団体組織が無かったことから、浦佐地域づくり協議会として“こうした交付金事業も取り込むなかで地域づくりを進める”とした考え方から、2014 年より本事業に取り組むこととしました。（独立会計-別組織として活動し、事務局は共有しています）

浦佐地域の「農振地域」と周辺地域を対象にした農水省の交付金事業で、「農業環境を守り育てる」ための様々な活動を行っています。

主体となる組織は「浦佐地域広域協定(会長井口義夫)」で、鰾島地区をはじめ 5 組織から成っていて、事務局は協議会事務局となっています。

2020 年度の全体事業費(繰越金含む)は 1,300 万円規模となって、農地と農用施設、景観を維持するための草刈作業や道水路の保守・農道の補修作業、また“田んぼ教室”、景観事業等々、地域の農業者が主体となった活動を行っています。

長寿命化事業では水路の補修工事など中心に業者委託工事を進めていて、鰾島地区などでは老朽化・不等沈下した水路の改修工事など行い事業効果を上げています。



浦佐地域広域協定 会長 井口義夫 201.7ha

八色の森浦構	76.5 ha	八色の森浦構 代表 坂西浩一郎
川原町環境サポート	14.3 ha	川原町環境サポート 代表 井口義夫
広域協定浦佐八色	24.5 ha	浦佐八色 代表 上村康則
広域協定鰾島	48.9 ha	鰾島 代表 岡村昌幸
広域協定五箇	37.4 ha	五箇 代表 井口章一郎

5 新しいスタート！浦佐公民館の活動

南魚沼市が“公民館分館体制”を地域づくり協議会組織へ編入し、「旧公民館浦佐分館」は【浦佐公民館】としてスタートし 2 年目を迎えました。

菊づくり・生け花と二つの委託事業を含め 11 事業を計画したところですが、新型コロナウイルス感染症の拡がりから結果的には多くの事業を中止することとなりました。大げさな表現をすれば“密を作りながら”地域のコミュニティを醸成し、密な中で生涯学習やスポーツ・レクリエーションを楽しんできた訳ですが・・・、“密を避ける”活動には俄かに対応することの難しさが表れた一年でした。



そば打ち教室から（20年度）

そうした状況にあっても幾つかの事業について対策を講じるなかで実施できたことは、次に繋がることと思います。地域のコミュニティを醸成し、あらゆる世代でのレク・スポーツ、また学習の機会を提供することは地域に活力を与え潤いのある社会生活にとっても重要かつ不可欠な活動であると考えます。協議会とともども“新しい生活習慣”の継続が必要であるならば、そうした習慣に合わせた新たな活動が必要であり求められていくと考えます。



（しめ縄づくり教室-コロナ以前）

（事業費規模：62 万円）

主な実施事業

- ・委託事業（生け花教室 12 回、菊づくり教室 7 回）
- ・地域の歴史にふれる遠足 中止 ・トレッキング「健康づくり登山」 中止
- ・三十三番観音様巡り 中止
- ・浦佐地区明朗運動会 中止
- ・グランドゴルフ大会 中止
- ・そば打ち講習会 11/21 ・しめ縄づくり教室 中止
- ・百人一首 子どもかるた大会 中止
- ・冬山トレッキング in 坂戸山（申込少数-中止）



菊づくり教室での成果が展示されます

6 その他事業

○ 花いっぱい運動

浦佐地域づくり協議会「環境部会」の皆さんにより、大和・魚沼地域の玄関口である浦佐駅東側地域の県道及び市道植栽樹の花壇作りに取組み、植栽区域も年を重ねるごとに充実した内容となっているように思えます。今年度は新型コロナウイルスの関係から、浦佐地域の主要道路、公園・広場などが会場となるイベントの中止が相次ぎ、訪問者などの減少は少し残念な状況でありましたが、花壇づくりや管理をして頂いた皆さんには大変ご苦労様でした。



○ ウェブ版「料飲店マップ」

魚沼基幹病院の開院、大型店の出店、また関連事業所などの充実・活性化するなか、魚野川兩岸地域での人の動きも着実に多くなっていると感じます。

浦佐料飲店組合の協力を得ながら作られた「Web 版料飲店マップ」は、浦佐と東地域の料飲店の様々な情報を一括して見ることができ、スマホやタブレットから簡単にお店を検索することができます。

「料飲店マップ」ではメニューや写真の内容更新や新規の加入など、日常的なメンテナンス作業を行っています。

「料飲店マップ」は浦佐料飲店組合と共同事業として、南魚沼市のパイロット事業補助金を頂くなかで 2015 年度から始まりました。“料飲店マップ” で検索してみませんか！



○ 南魚沼暮らし体験住宅の利用

浦佐毘沙門通りに、南魚沼市の「暮らし体験」施設として利用がされてきました【浦佐びしゃもん亭】の運用が終了しました。期待された定住希望者などとの交流施設でしたが、市外からの利用者は多くはありませんでした。

地域の人口減少が進む状況にあっては、自然増加に期待するばかりでなく、新たな移住・定住者を受け入れる、或いは事業としての「小さな観光」を進めるうえで、今後もこうした施設が必要になると思われます。

事業の運営にあっては南魚沼市と事業契約を結び「事業会計」で運営されてきました。



○ 「地域との絆づくり支援事業」の取り組み(南魚沼市補助事業)

“フットパス foot-path による小さな観光事業で地域の活性化” を目指し、'20 年度から南魚沼市の補助事業として「地域との絆づくり支援事業」を進めてきました。今年度の事業費は 350 万円規模('20 年度予算額)となって、「旧三国街道コース」をオープンさせることが出来ました。（コースマップの製作、コースガイドの養成、標柱設置、休憩スポットの整備、ツアーイベント等を実施してきました）



○ 南魚沼地域振興局サポートチームの活動

新潟県が県内 12 の地域振興局ごとに地域活動を支援する組織で、南魚沼地域振興局チームとして振興局各部からメンバー 6 名が集まりました。活動も 2 年目となって、今年度の主な支援として SNS を中心としたコマーシャル活動分野に重点的にサポート頂きました。内容としてはコースマップの製作、CM 動画の撮影とYouTubeへのアップ、FB・Instagram開設など再生回数・利用者など着実に増えていると感じています。動画は地域振興局、新潟県庁、浦佐駅 MYU 等の入り口・ロビー等でも常時流れていて目に止められた方もいるのではないのでしょうか。もちろん HP「浦佐のフットパス」からも検索可能となっています。

秋には「旧三国街道コース」がオープンし、開設イベントとして数回のフットパスツアーを行い、地域の行政区長、県・市の一般職員・関係者、そして地域づくり協議会幹事の皆さんなど 7 回の実施で延べ 74 名の参加がありました。

新型コロナ感染症の拡がりもあって、広範な方々への体験呼びかけが控えられる状況もあり多くの皆様へのお披露目は出来ませんでした。それでも参加者からは好意的な印象を持たれたとの報告もあり、次年度以降の来訪に期待をしたいところです。



10月18日 区長さんを招いてお披露目フットパス



ガイド養成のフットパス



リモートで行われたサボチの発表会

○ 浦佐の「川まち計画」について

昨夏 7 月 2 日、市建設課長と共に国交省「信濃川河川事務所」を訪問させていただき、所長・副所長さん等はじめ事務所関係者の方々と歓談する機会がありました。私たちの「川まち計画」の説明と、実現に向けた支援・ご協力のお願いとともに今後の進展に向けたご指導を戴くことが出来ました。

その後、市建設課との打ち合わせ、河川事務所長の現地視察などがあり、10 月には「観察小河川」の設置についての打ち合わせがありました。先月 2 月には設置工事での現地打ち合わせなど“出来ることから”と実現に向けた取り組みが進められています。

また新年度からは小規模ですが、「河川内広場・駐車場」の整備と地域による管理など進められることに期待をしたいと思います



浦佐の「川まち計画」予定地



多間橋上流の左岸高水敷



観察小河川の打ち合わせ



浦佐は「川のまち」でもあります

○ 浦佐の都市計画見直しについて

南魚沼市「都市計画マスタープラン」は 2016 年 3 月に更新され、概ね 20 年後の年の姿を見据えつつ実現可能な 10 年間の都市づくりに関する基本的な方針が示され、「都市計画」についても見直しの方向で進んできました。2019 年 9 月に示された浦佐地域の都市計画見直し案には、地域として大きな課題となっていた“見直し要望箇所”が搭載されていなかったことから協議会として「公述意見書」を提出(2019 年 10 月)し、新潟県並びに南魚沼市と協議を重ねてきました。



「都市計画」は地域の公共事業とまちづくりの骨格を示すものであり、この間数期にわたるワークショップや地域からの要望等に沿った取り組みをしていきたいと考えています。

なお 3 月 23 日には、再検討された「見直し案」及び毘沙門通りの「無電柱化」の説明会が市役所大和庁舎で開催されました。

○雪国おくにじまん会館 1 階「JA 浦佐支店」の跡地利用についての取り組みについて

2019 年 11 月 JA 浦佐支店の天王町への移転が公表され、翌 20 年夏ころを目途に「営農センター」で営業が開始されるとの見通しが示されました。移転に伴い、会館 1 階の利用について“地域として活用ができないか”と従来からのワークショップでのまちづくり案とともに、新たなワークショップの立ち上げなどから“地域の活用案”として南魚沼市長への働き掛けを行ってきました。

数回にわたる市長への要望、また打ち合わせなど行ななかで一定の方向性と新年度予算に改修費として計上して頂ける運びとなりました。今後は早急に活用案に示された計画が実現できるような取り組みが必要となることと考えられます。

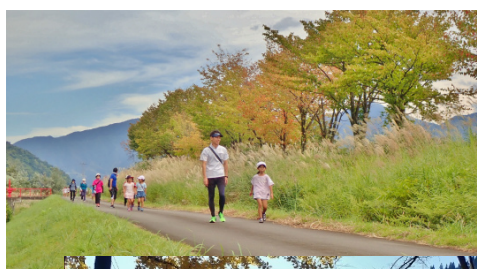


会館 1 階の活用を考える WS



メモ欄

写真で見る地域づくり協議会の活動



料飲店マップは【浦佐地域づくり協議会】



フットパスは【浦佐のフットパス】で検索！